

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1147 号	氏 名	立 石 文 子
論文審査担当者	主 査 塩 沢 丹 里 副 査 佐 々 木 克 典 ・ 中 山 淳		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>妊娠高血圧症候群 (PIH) の発症機序は、まずらせん動脈リモデリング不全により低酸素に陥り、絨毛細胞が出す sFlt-1 や sEng などの因子により内皮細胞障害が惹起されて高血圧や腎障害が誘導されるという二段階発症説が支持されているが、病型によって病態が異なる可能性が論じられている。PIH 患者の胎盤組織では多発梗塞、らせん動脈アテロシス、遠位絨毛形成不全や合胞体結節の増加を認めるが、これらの所見は全ての PIH で観察されるわけではなく、その特異性も不明瞭である。本研究では、病型に関連する組織学的変化を明らかにすることを目的とし、病理組織学的所見の出現頻度が PIH の病型に関連するかの検討を行った。</p> <p>2008 年 1 月から 2014 年 12 月に信州大学医学部附属病院で PIH と診断された単胎 107 例を対象とし、HE 標本から得た所見と診療録から収集した臨床情報を解析した。病理学的所見は多発梗塞、らせん動脈アテロシス、遠位絨毛形成不全、合胞体結節の増加を評価した。</p> <p>その結果、立石文子は次の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 遅発型に比し、早発型においてはらせん動脈アテロシス、遠位絨毛形成不全、合胞体結節の増加を高頻度に認めた。多発梗塞は統計学的有意差がなかった。2. 重症型と軽症型での比較では、全ての所見項目で有意差はなかった。 <p>これらの結果から、早発型は二段階発症説に矛盾しない病理組織所見であるらせん動脈アテロシス、遠位絨毛形成不全、合胞体結節の増加がより高頻度に観察されることが明らかとなった。このことから、早発型は二段階発症説で想定される機序で発症しているが、遅発型は異なる可能性が示された。</p> <p>よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			